

原田正純先生の研究業績

著書

単著

『水俣病』（岩波新書）岩波書店、1972

（英語訳：2004年、インドネシア語訳：2005年、韓国語訳：2006年、中国語訳：2011年）

『水俣病は終わっていない』（岩波新書）岩波書店、1985

『水俣病に学ぶ旅』日本評論社、1985

『水俣の赤い海』フレーベル館、1986

『水俣が映す世界』日本評論社、1989

『胎児からのメッセージ』槇書房、1989

『水俣 もう1つのカルテ』新曜社、1989

『水俣の視図 弱者のための環境社会学』立風書房、1992

『炭じん爆発 三池三川鉱の一酸化炭素中毒』日本評論社、1994

『慢性水俣病 何が病像論なのか』実教出版、1994

『この道は』熊本日日新聞社、1995

『水俣病と世界の水銀汚染』実教出版、1995

『裁かれるのは誰か』世織書房、1995

『胎児からのメッセージ 水俣・ヒロシマ・ベトナムから』実教出版、1996

『炭坑の灯は消えても 三池鉱炭じん爆発によるCO中毒の33年』日本評論社、1997

『金と水銀、私の水俣学ノート』講談社、2002

『ライブラリー・環境問題 環境と人体』世界書院、2002

『いのちの旅 水俣学への軌跡』東京新聞出版局、2002

『“負の遺産”から学ぶ、坂本しのぶさんと語る』（水俣学ブックレットNo.2）熊本日日新聞社、2006

『豊かさと棄民たち 水俣学事始め』岩波書店、2007

『水俣への回帰』日本評論社、2007

『マイネカルテ 原田正純問書』（石黒雅史著）西日本新聞社、2008

『宝子たち 胎児性水俣病に学んだ50年』弦書房、2009

『油症は病気のデパート カネミ油症患者の救済を求めて』アットワークス社、2010

共編著・分担

「水俣病にたいする企業の責任 ― チッソの不法行為」（水俣病研究会編）（分担執筆）、水俣病研究会、1970

「10年後の水俣病に関する疫学的、臨床医学的ならびに病理学的研究（5）水俣病の臨床疫学的ならびに症候学的研究」（共著）、熊本大学医学部10年後の水俣病研究班『10年後の水俣病に関する疫学的、臨床医学的ならびに病理学的研究』、pp.41-61、1972

「各種中毒」、島蘭安雄・喜田村孝一・大友英一編『脳波アトラス、4巻』、pp.164-176、文光堂、1975

「有機水銀中毒」、浜田晋ら編『精神科症例集』、pp.226-245、岩崎学術出版社、1975

「水銀中毒」「工業中毒」「鉛中毒」、加藤正明ら編『精神医学事典』、弘文堂、1975

- 「A Medical Report」、W. Eugene Smith & Aileen M. Smith: Minamata Disease. Words and photography, pp.180-192, Holt, Rinehardt and Winston, INC., New York, 1975
- 「水俣病の教訓生かせ」 pp.123-126、「カナダの水銀問題」 pp.303-306、「カナダ・インディアン居留地における水銀問題の調査」 pp.329-339、都留重人総括『現地に見る世界の公害 — 世界環境調査団報告』、中日新聞出版局、1975
- 「有機水銀中毒」、黒岩義五郎編『神経疫学』、pp.385-407、医学書院、1976
- 「Epidemiological and clinical population studies of coastal inhabitants consuming seafood from organic mercury-contaminated sea」(共著)、Ed. by T. Tsubaki and K. Irukayama: Minamata disease, Methylmercury poisoning in Minamata and Niigata, Japan, pp.240-267, Kodansha, Tokyo, 1977
- 「水俣病を追って」、都留重人編『世界の公害地図(上)』、pp.710-135、岩波新書、1977
- 「二硫化炭素中毒、水銀中毒」、内村祐之ら編『現代精神医学大系15巻B 薬物依存と中毒Ⅱ』、pp.295-332、中山書店、1977
- 「水俣病の現在の問題点 とくに社会医学的側面」、宮本憲一編『地域開発と自治体2 公害都市の再生・水俣』、pp.3-37、筑摩書房、1977
- 「Methylmercury poisoning due to environmental contamination “Minamata disease”」、Ed. by F.W.Oehme: Toxicity of heavy metals in the environment, pp.261-302, Marcel Dekker, INC., New York, 1978
- 「水俣病医学研究の歩みと今日の課題」 pp.3-26、「慢性水俣病の臨床症状」 pp.301-318、「水俣病の精神症状」 pp.319-330、「先天性水俣病、胎内でおこった有機水銀中毒」 pp.345-370、有馬澄雄編『水俣病 20年の研究と今日の課題』、青林舎、1979
- 「水俣病・医学報告 — その歴史と解説」、W. ユージン・スミス & アイリーン・スミス『写真集・水俣』、pp.184-191、三一書房、1980
- 「環境汚染と子ども — 胎児性水俣病を中心に」、国際児童年熊本懇話会編『熊本子ども白書・医療編』、pp.75-82、国際児童年熊本懇話会、1981
- 「巻頭言 生命のみなもとから」、「(付) 川本輝夫との出会い」 pp.62-76、『熊大自主講座講義録「僻遠」第1巻 生命のみなもとから』、熊本日日新聞情報文化センター、1981
- 「Minamata disease, Organic mercury poisoning caused by ingestion of contaminated fish」、Ed. by E.F.P. Jelliffe: Adverse Effects of Food, pp.135-148, Plenum Pub. Co., New York, 1982
- 「日本防治職業病と公害病的経験」、『日本労働災害、塵肺及其他職業病』、pp.8-32、工人出版社、北京、1982
- 「過ちをくり返さないために — 九州からの報告」 pp.1-2、「水俣症候群をみつめて」 pp.5-36、「宝子よ — 胎児性水俣病」 pp.79-100、『熊大自主講座講義録「僻遠」第2巻 うしてらるもんか』、熊本日日新聞情報文化センター、1982
- 「公害の原点・水俣病」、『新・熊本の歴史9(現代)』、pp.267-284、熊本日日新聞社、1983
- 「水俣病の今後の課題」、山縣登・土井陸雄・最首悟・田口正編『環境汚染へのとりくみ、重金属の生物影響』、pp.162-174、恒星社厚生閣、1983
- 「不知火海有機水銀汚染の医学的追究」、色川大吉編『水俣の啓示(上)』、pp.325-388p、筑摩書房、1983
- 「いま、水俣病は?」(岩波ブックレット No.23) (共著)、岩波書店、1983
- 「水俣病の認定制度と医学的実態」、原田正純・宮本憲一編『水俣・現状と展望』、pp.55-72p、東研出版、1984
- 「石炭火電の環境問題」、原田正純編『恐るべきエネルギー公害』、東研出版、1984
- 「文化と環境、そして医学」、栗原彬・今坊人・杉山光信・山本哲士編『叢書 社会と社会学2 文化の

- なかの政治』、pp.226-246、新評論、1985
- 「Congenital Minamata Disease, Intrauterine Methylmercury Poisoning」、Ed. by John L. Sever: Teratogen Update, Environmentally Induced Birth Defect Risks、pp.259-265、Aran R. Liss, INC., New York、1986
- 「工業化・都市化と人間」pp.67-125、「巨大石炭火力発電の環境問題」pp.177-221、淡路剛久編『開発と環境』、日本評論社、1986
- 「アジアにおける環境問題」、土井陸雄編『発展途上国の環境問題』、pp.45-76、恒星社厚生閣、1987
- 「ボパール毒ガス漏洩事件」、三浦豊彦編『現代労働衛生ハンドブック』、pp.1362-1364、労働科学研究所出版部、1988
- 「The Intrauterine Methylmercury Poisoning Known as “Congenital Minamata Disease” – A 20 Year Serial Investigation and Its Recent Problems」、Ed. by S. Tsuru, et al: For Truth and Justice in the Minamata Disease Case, Proceeding of the International Forum on Minamata Disease 1988、pp.259-265、Keisou Shobo、1989
- 「胎児性水俣病」、公明編集部編『病める地球、環境破壊と人類の未来7』、pp.119-130、公明党機関紙局、1989
- 『地下水からの警告』原田正純編、くまもとの地下水を考える会、1990
- 「チッソ水俣工場労働者の健康調査 — 公害病と職業病の接点」(共著)、高松誠先生門下生編集委員会編『働く人々の健康問題』、pp.197-218、医療図書出版社、1990
- 「今、水俣から」、田中裕一著『石の叫ぶとき』、pp.175-215、未来を創る会、1990
- 「発展途上国の環境問題、水俣からアジアと日本の関係を見る」、池上惇・淡路剛久・林健久編『二十一世紀への政治経済学』、pp.287-310、有斐閣、1991
- 「金属汚染」「土呂久鉍毒病」「水俣病の教訓」「セブソ事件とラブ・キャナル事件」「ボパール事件」「ベトナムにおける枯葉剤」、半谷高久・岡部昭彦・秋山紀子編『人間と自然の事典』、化学同人、1991
- 「水俣病」、佐々木毅、他編『戦後史大辞典』、pp.875-877、三省堂、1991
- 「地球環境問題の原点 — 水俣病35年の教訓と課題」、高宗昭敏編『熊本発地球環境読本』、pp.71-85、東海大学出版会、1992
- 「水俣病は終わっていない」、柳田邦男責任編集『同時代ノンフィクション選集9 技術社会の影』、pp.203-320、文藝春秋、1992
- 「Congenital Minamata Disease; Intrauterine Methylmercury Poisoning」、Ed. by T. Seki: Brain Damage Associated with Prenatally Environmental Factors、pp.61-66、Keio Univ., Tokyo、1994
- 「Survey on the Effect of Herbicides on Human Health in South Vietnam」、Ed. by T. Seki: Brain Damage Associated with Prenatally Environmental Factors、pp.67-71、Keio Univ., Tokyo、1994
- 「地域社会と生活福祉 — 水俣病における救済問題より」、一番ヶ瀬康子・尾崎新編『講座生活学7 生活福祉論』、pp.49-85、光生館、1994
- 「水俣が映す世界」、木野茂編『環境と人間、公害に学ぶ』、pp.27-49、東京教学社、1995
- 「一筋の道 — わが水俣病研究人生三〇年」、高宗昭敏編『熊本発・地球市民宣言』、pp.208-228、熊本出版文化会館、1995
- 「公害、労災の中の差別構造」、栗原彬編『日本社会の差別構造』、pp.100-117、弘文堂、1996
- 「Neurotoxicity of Methylmercury: Minamata and the Amazon」、Ed. by Yasui, M., Strong, M.J., Ota, K. and Verity, M.A.: Mineral and Metal Neurotoxicology、pp.177-188、CRC Press, New York、1997
- 「水俣病ではないが原因不明の神経疾患? 森千代喜の医学的検討」、最首悟・山之内萩子編『森千代

- 喜、我は雨もいとわず段草を切る』、pp.425-464、世織書房、1997
- 「水俣の証人」、淡路剛久・寺西俊一編『公害環境法理論の新たな展開』、pp.47-50、日本評論社、1997
- 「公害と差別」、『現代の差別を考える3』、pp.66-69、全国同和教育研究協議会、1997
- 「企業城下町の公害 — 水俣病の影とまちの再生」、鈴木廣・木下謙治・三浦典子・豊田謙二編『まちを設計する — 実践と思想』、pp.217-243、九州大学出版会、1997
- 「有機水銀中毒、その他の重金属中毒」、三好功峰・黒田重利編『器質・症状性精神障害』、pp.365-384、中山書店、1997
- 「Minamata Disease as a Model of Environmental Problems」、Ed. by Koizumi, M.: Environmental Measurement and Analysis、pp.46-46、Japan Science and Technology Corp、1997
- 「水俣病から学ぶ」、日本環境教育フォーラム編『市民のための環境講座 上巻』、pp.79-102、中央法規出版、1997
- 「患者家族の苦しみ、残された課題、何を救済するのか」、pp.62-64、「専門家の責任」、pp.282-286、水俣病訴訟弁護団編『水俣から未来を見つめて、水俣病訴訟弁護団の記録』、熊日情報文化センター、1997
- 「広がる環境汚染と健康被害」、日本環境会議編(原田正純編集責任)『アジア環境白書1997-1998』、pp.9-56、東洋経済新報社、1997
- 「水を守る市民たちに希望を託したい」、熊本保険医協会編『くまもと水防人物語』、pp.360-369、楨書房、1998
- 「水俣病原因究明の道程、水銀の分析と臨床疫学」、小泉英明編『環境計測の最先端』、pp.237-252、三田出版会、1998
- 「水俣病における専門家の責任」、水俣病被害者・弁護団全国連絡会議編『水俣病裁判全史、第二巻、責任論』、pp.3-24、日本評論社、1999
- 「三池炭鉱、1963年炭じん爆発を追う」(共著)、日本放送出版協会、1999
- 「ダイオキシンの人体影響、ベトナム枯葉剤影響調査から」(共著)、樽谷修・本間慎編『検証 環境ホルモン』、pp.79-90、青木書店、1999
- 「水俣病から環境ホルモンへ」、日本子どもを守る会編『子ども白書、1999年版』、pp.266-270、草土文化、1999
- 「Pollution and Health Damage in Asia」 pp.19-25、「Lessons of Minamata disease」 pp.25-26、Ed by Japan Environmental Council: The State of the Environmental in Asia、Springer、Tokyo、2000
- 「負の遺産、胎児性水俣病とPCB胎児症」、止めよう！ダイオキシン汚染・関東ネットワーク編『なぜカネミ油症か』、pp.138-145、東京、2000
- 「レチノイン酸胎芽症」「胎児性アミノプロテイン症候群」「胎児性メチル水銀症候群」別冊日本臨床・領域別症候群シリーズ、No.30、2000
- 「ベトナムにおけるダイオキシンの人体への影響」、日本環境会議編(編集責任)『アジア環境白書2000/2001』、pp.185-188、2000
- 「専門家による負の装置」、栗原彬・小森陽一・佐藤学・吉見俊哉編『越境する知(4)、装置：壊し築く』、pp.165-197、東京大学出版会、2000
- 「三池炭じん爆発」、木野茂編『新版・環境と人間 — 公害に学ぶ』、pp.44-61、東京教学社、2001
- 「人類の「負の遺産」から何を学ぶか」、加藤尚武編『図解スーパーゼミナール環境学』、pp.31-42、東洋経済社、2001
- 「海・水俣・アジア」、尾本恵市・濱下武志・村井吉敬・家島彦一編『海のアジア、⑥アジアの海と日本人』、pp.205-227、岩波書店、2001
- 「水俣病の悲劇を繰り返さないために、水俣病の経験から学ぶもの」(共著)、中央法規、2001

- 「専門家は漁民に学ぶこと」、諫早干潟・川辺川ダムから海を考える会編『よみがえれ、宝の海』、pp.20-23、2001
- 「In the Hope of Avoiding Repetition of a Tragedy of Minamata Disease, What We have Learned from the Experience」(共著)、The Social Scientific Study Group on Minamata Disease, National Institute for Minamata Disease、2001
- 「水俣からの報告」、『日本環境年鑑2001』、pp.53-56、創土社、2001
- 「日本公害事件中的健康被害之状況」、王燦発編『環境紛争処理の理論と実践』、pp.226-237、中国政法大学出版社、北京、2002
- 「水俣からの報告(2)」、『日本環境年鑑2002』、pp.53-56、創土社、2002
- 「Impacts of Dioxins on Human Health in Vietnam」、Ed. by Japan Environmental Council: The State of the Environment in Asia 2002/2003、pp.143-146、Springer、2003
- 「公害の原点としての水俣病」、船橋晴俊・宮内泰介編『新訂・環境社会学』、pp.66-90、放送大学教育振興会、2003
- 「水俣からの報告(3)」、『日本環境年鑑2003』、pp.53-55、創土社、2003
- 「Minamata Disease」、translation edited by Timothy S. George, Kumamoto Nichinichi Shinbun Culture & Information Center、2004
- 「水俣病と世界の水銀汚染」pp.73-96、「環境問題をどこから考えるか(シンポジウム)」pp.226-263、丸山徳次、他編『応用倫理学講義、2 環境』、岩波書店、2004
- 「人類史に及ぼした水俣病の教訓、水俣学序説」、高橋隆雄編『生命と環境の共鳴』、pp.149-185、九州大学出版会、2004
- 「水俣学の開講にあたって」pp.1-21、「水俣病の歴史」pp.23-49、「世界の水銀汚染と水俣病」pp.259-282、「水俣学まとめ、教訓をよりたしかなものに」pp.309-327、原田正純編著『水俣学講義』、日本評論社、2004
- 「水俣の教訓から新しい学問への模索」pp.11-29、「水俣病における認定制度の政治学」pp.161-197、原田正純・花田昌宣編著『水俣学研究序説』、藤原書店、2004
- 「四大公害問題と環境福祉」、炭谷茂編著『環境福祉学入門』、pp.31-55、環境新聞社、2004
- 「水俣病は終わっていない」pp.19-28、「胎児性水俣病をめぐる問題」pp.273-303、原田正純編著『水俣学講義第2集』、日本評論社、2005
- 「現場からの学問の捉え直し なぜ、いま水俣学か」、新崎盛暉・比嘉政夫・家中茂編『地域の自立シマの力』、pp.32-51、コモンズ、2005
- 「いのちとくらしの重み」「水俣病」、『現代看護キーワード事典』、桐書房、2005
- 「わが死民新版解説」、石牟礼道子編『水俣病闘争 わが死民』、pp.331-337、創土社、2005
- 「水俣からの報告(4)」、『日本環境年鑑2004』、創土社、pp.41-43、2006
- 「医師から見たカネミ油症被害者の健康被害と克服への道」、カネミ油症被害者支援センター編『カネミ油症 過去・現在・未来』、緑風出版、pp.63-104、2006
- 「水俣がかかえる再生の困難性 水俣病の歴史と現実から」、寺西俊一・西村幸夫編『地域再生の環境学』、pp.13-30、東京大学出版会、2006
- 「対談 水俣の町は蘇るのか」『水俣再生への道 谷川健一講演録(水俣学ブックレット②)』、熊本日日新聞社、2006
- 「水俣病と石牟礼道子」、岩岡中正編『石牟礼道子の世界』、pp.73-107、弦書房、2006
- 『アジア環境白書 2006/2007』、宮本憲一・原田正純編集、東洋経済新聞社、2006
- 「カナダ水俣病」pp.199-240、「水俣病のグローバルな視点」pp.241-266、原田正純編著『水俣学講義第3集』、日本評論社、2007

- 「水俣学序説 — 水俣病の教訓をどう活かすか」、朴恵淑編『四日市学講義』、pp.238-255、風媒社、2007
- 「水俣病公式発見から50年 — 宝子に想う」、最首悟・丹波博記編『水俣五〇年、ひろがる“水俣”の思い』、pp.335-353、作品社、2007
- 「水俣病50年」、原田正純・花田昌宣編著『水俣学講義第4集』、pp.23-48、日本評論社、2008
- 「三井三池炭塵爆発 産・官・学無責任の構図」、柳田邦男編『心の貌 — 昭和事件史発掘』、pp.181-204 文藝春秋、2008
- 「不条理に黙ってはいられない」、緒方正実『孤闘 — 正直に生きる』、pp.544-546、創想舎、2009
- 「復刻 水俣病論文三部作（1963－1964年） 解題」、水俣学研究資料叢書 3、pp.1-5、熊本学園大学水俣学研究センター、2009
- 「カネミ油症事件の40年、人権侵害に関する意見書より」、カネミ油症40年記念誌編さん委員会『回復への祈り — カネミ油症40年記念誌』、pp.70-73、長崎県五島市、2010
- 「水俣からのメッセージ — 豊かな時代を生きる君たちへ」、『仏教生命観に基づく人間科学の総合的研究』、pp.106-132、龍谷大学人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター、2010
- 「慢性二硫化炭素中毒との関わり」、興人八代・二硫化炭素中毒症被災者の会編『レーヨン発展のかけで、患者たちの闘いと熊本民医連』、pp.16-22、花伝社、2010
- 「水俣学と谷中学」、小松裕・金泰昌編『公共する人間 4 田中正造、生涯を公共に献げた行動する思想家』、pp.221-233、東京大学出版会、2010
- 「公害の原点 水俣病事件 その1」 pp.50-75、「公害の原点 水俣病事件 その2」 pp.76-99、「公害の原点 水俣病事件 その3」 pp.100-111、「公害の原点 水俣病事件 その4」 pp.123-149、日本バプテスト連盟公害問題特別委員会編『『なぜですか』、闇を照らす“いのち”の叫び』、青雲印刷刊、2010
- 「天の声 — カネミ油症事件と矢野トヨコさん」、矢野トヨコ追悼文集刊行会『矢野トヨコ かく生きたり — あるカネミ油症被害者の歩み』、pp.176-177、アットワークス、2010
- 「水俣と三池」、高草木光一編『連続講義 1960年代未来へつづく思想』、pp.91-149、岩波書店、2011
- 「海・水俣病・アジア」、尾本恵市・濱下武志・村井吉敬・家島彦一編『海のアジア⑥ アジアの海と日本人』、pp.205-227、2011
- 「ミナマタの教訓を福島にどう生かすか」、原爆症認定訴訟熊本弁護団編『水俣の教訓を福島へ』、pp.58-69、花伝社、2011
- 『みなまたの木』、原田正純監修、三枝三七子著、創英社、2011
- 「水俣病の差別と共生」、堀正嗣編『共生の障害学 — 排除と隔離を超えて』、pp.226-252、明石書店、2012
- 「新潟水俣病に学ぶ — 環境と人間のふれあい」、新潟水俣病阿賀野患者会他編著『阿賀は訴える — こんどこそノーモア・ミナマタを！』、pp.50-57、新潟日報事業社、2012
- 「水俣病事件史から学ぶ」、熊本学園大学水俣学研究センター編『水俣からのレイトレッシン水俣学ブックレット 9』、pp.19-31、熊本日日新聞社、2013
- 「水俣病とハンセン病 — 未来に伝える」、大野哲生・花田昌宣・山本尚友編『ハンセン病講義』 pp.123-158、現代書館、2013

研究論文

- 寺岡肇、三村孝一、山県道雄、原田正純、高木元昭：前大脳動脈閉塞の1例、熊本医学会雑誌、37、432-436、1963
- 三村孝一、原田正純、山県道雄、豊永啓太郎、鈴木高秋：頭部外傷後遺症患者の脳波、熊本医学会雑誌

誌、38, 704-721, 1964

原田正純：水俣地区に集団発生した先天性・外因性精神薄弱 — 母体内で起った有機水銀中毒による神経精神障害“先天性水俣病”、精神神経学雑誌、66, 429-468, 1964

原田正純、上妻善生：てんかんと交通事故 — 2例の考察、精神医学、7, 257-262, 1965

原田正純、上妻由起子、三好公明：甲状腺含有の“やせ薬”の連用による精神障害、精神医学、7, 712-716, 1965

立津政順、原田正純、山県道雄、寺岡葵：Diffuse alpha 波の臨床症状について — その1. ヒロボン中毒後遺症患者（受刑者）の脳波、臨床脳波、8, 105-111, 1966

立津政順、清田一民、東家暁、寺岡肇、藤田英介、井上赳、三村孝一、原田正純、他11名：炭塵爆発により集団発生した一酸化炭素中毒患者の脳波学的研究、精神神経学雑誌、69, 71-97, 1967

立津政順、東家暁、藤田英介、井上赳、原田正純、他5名：一酸化炭素中毒の脳波による予後判定 — 初期の脳波と2年目の症状との関係、脳と神経、19, 209-217, 1967

立津政順、原田正純、藤田英介、村山英一、安岡文恵、笠置恭宏、石川孝：Diffuse alpha 波の臨床症状について — その2. 一酸化炭素中毒後遺症患者の脳波、臨床脳波、10, 109-118, 1968

立津政順、原田正純、中村清史、笠置恭宏、石川孝、釜野尤志：中毒による神経精神障害の脳波について — 水俣病・一酸化炭素中毒・サイクロセリン中毒・ヒロボン中毒の脳波の比較、熊本医学会雑誌、42, 371-378, 1968

原田正純、上妻善生：Sudeck 症状群や多彩な精神神経症状を示した一酸化炭素中毒後遺症の1例、脳と神経、20, 1095-1099, 1968

原田正純、中村清史、三浦嘉道、鈴木高秋、友成久雄：抗結核剤 Cycloserine 中毒による神経精神障害患者の脳波、臨床脳波、10, 456-464, 1968

原田正純、宮川洗平、早崎和也：パーキンソニスムスに対する Chlorphenoxamine Hydrochloride (Systral) の使用経験、薬物療法、2, 153-156, 1969

立津政順、東家暁、三村孝一、原田正純、津嘉山毅：炭塵爆発により集団発生した一酸化炭素中毒の4年目までの追跡調査による臨床的研究、神経研究の進歩、13, 11-19, 1969

立津政順、村山英一、原田正純、宮川太平：後天性水俣病の後遺症 — 発病後4½年と7½年における症状とその変動、神経研究の進歩、13, 76-83, 1969

原田正純、笠置恭宏、三浦嘉道、石川博也：一群の精神身体症状をとまなう Drowsy Pattern の臨床的研究、精神医学、11, 595-606, 1969

平安常敏、原田正純、寺岡葵：沖縄における非行少年について、熊本医学会雑誌、43, 812-818, 1969

原田正純、平安常敏、津嘉山毅、立津政順：健康者の臨床脳波学的研究 — 運転者の適正検査として、熊本医学会雑誌、43, 885-891, 1969

原田正純、中村清史、笠置恭宏、石川孝、上妻四郎：死戦期の長時間ポリグラフの1例、臨床脳波、12, 115-120, 1970

原田正純、三浦嘉道、石川博也、浦塘昌三：心停止後4年間失外套症状群を示す1例 — 臨床症状、脳波経過と終夜脳波所見、脳と神経、22, 733-739, 1970

服部英世、原田正純：脳波上に持続性の睡眠波 Drowsy Pattern を示す分裂病様状態の1例、精神医学、12, 757-762, 1970

原田正純、南龍一、服部英世：失外套症候群患者の睡眠、臨床脳波、13, 717-722, 1971

原田正純：水俣病（メチル水銀中毒）の脳波、臨床脳波、13, 141-149, 1971

寺岡葵、釜野尤志、原田正純、他10名：交通事故による業務上過失致死事件少年に関する精神医学的研究、精神神経学雑誌、73, 27-39, 1971

東美穂、西山友博、寺崎告則、加納龍彦、下地恒毅、森岡亨、原田正純：電気麻酔の臨床応用、(6)

- 副腎機能に及ぼす影響、麻酔、20, 117-121, 1971
- 寺崎告則、下地恒毅、東美穂、荒瀬正信、増永征雄、加納龍彦、西山友博、原田正純：電気麻酔の臨床応用、(7)電気麻酔療法下における脳循環・脳代謝、麻酔、20, 389-394, 1971
- 原田正純、三村孝一、津嘉山毅、南龍一、立津政順：炭塵爆発により集団発生した一酸化炭素中毒後遺症の5年目の脳波学的研究、精神神経学雑誌、73, 854-865, 1971
- 平原輝雄、原田正純、早崎和也、森山弘之：緊張病症候群を示した Turner 症候群、精神医学、13, 255-261, 1971
- Tatetsu, S., Miyakawa, T., Fujita, E., Takaki, M., Harada, M.: A clinical and pathological study of myeloneuropathy following abdominal disorders, *Folia Psychiatrica et Neurologica Japonica*, 25, 225-233, 1971
- 原田正純：16年後の水俣病の臨床的・疫学的研究、神経研究の進歩、16, 870-880, 1972
- 原田正純、寺岡葵、南龍一、堀田宣之、服部英世、江上昌三、松下敏夫：ボンド（接着剤）乱用少年の脳波学的研究、臨床脳波、14, 653-657, 1972
- 原田正純：中毒性脳障害における痴呆 — 一酸化炭素中毒・有機水銀中毒・二硫化炭素中毒・サイクロセリン中毒について、精神医学、10, 408-412, 1973
- 原田正純、南龍一、服部英世、江上昌三：長期失外套症状群を示した患者の睡眠、臨床脳波、15, 565-571, 1973
- 原田正純：睡眠の臨床的研究、日本体質学雑誌、37, 15-26, 1973
- 原田正純：難治性パーキンソン症候群に対する Symmetril (amantadine) の治療経験、基礎と臨床、7, 2132-2136, 1973
- 原田正純、松村勝之、南龍一、西征寛：長期洞穴内居住時の睡眠 — 環境因子が睡眠に及ぼす影響、臨床脳波、15, 620-624, 1973
- 原田正純、弟子丸元紀：コルチコイド療法と精神障害、西日本皮膚科、36, 191-196, 1974
- 原田正純、中村清史、立津政順、津嘉山毅、河野浩介、樺島啓吉：慢性二硫化炭素中毒の脳波、臨床脳波、16, 427-431, 1974
- 中村清史、原田正純、立津政順、宮川太平、津嘉山毅、河野浩介、樺島啓吉：慢性二硫化炭素中毒の臨床的研究、精神神経学雑誌、76, 245-273, 1974
- 二塚信、照屋博行、原田正純、松村勝之、後藤琢也：振動工具使用労働者の脳波、いわゆる白ろう病との関係について、臨床脳波、16, 690-694, 1974
- 寺岡葵、江頭竹一郎、坂梨寿弘、内村カツ子、原田正純、他9名：接着剤吸引少年について、精神神経学雑誌、76, 593-640, 1974
- 原田正純：有機水銀による精神薄弱、2症例からみた先天性水俣病の診断について、脳と発達、6, 378-387, 1974
- 原田正純：農薬による有機水銀中毒、ニューメキシコの例、日本農村医学会雑誌、24, 422-423, 1975
- 原田正純、南龍一：重症脳器質障害患者の睡眠特性、とくに REM 期睡眠を中心にした睡眠リズムの検討、神経研究の進歩、19, 764-770, 1975
- Nishigaki, S., Harada, M.: Methylmercury and selenium in umbilical cords of inhabitants of the Minamata area, *Nature*, 258, 324-325, 1975
- 原田正純、赤木健利、藤野紘：カナダ・インディアン水銀中毒事件、疫学的・臨床的調査、公害研究、5 (3), 5-18, 1976
- Harada, M.: Intrauterine poisoning, Clinical and epidemiological studies and significance of the problem, *Bulletin of the Institute of Constitutional Medicine, Kumamoto University*, Suppl. 25, 1-60, 1976

- Harada, M., Fujino, T., Akagi, T., Nishigaki, S.: Epidemiological and clinical study and historical background of mercury pollution on Indian reservations in Northwestern Ontario, Canada, 体質医学研究所報告, 26, 169-184, 1976
- 原田正純、藤野紓、樺島啓吉、立津政順、衛藤光明、武内忠男: 長期にわたって精神病とされた水俣病、剖検所見と水俣病の精神症状、精神医学、18, 935-944, 1976
- 藤野紓、住吉司郎、南龍一、平原輝雄、服部英世、原田正純、堀田宣之: 精神遅滞の臨床疫学的研究、有機水銀汚染の影響、熊本医学会雑誌、50, 282-295, 1976
- Harada, M., Minami, R., Hattori, E., Nakamura, K., Kabashima, K.: Sleep in brain-damaged patients. An all night sleep study of 105 cases, *Kumamoto Medical Journal*, 29, 110-127, 1976
- 原田正純: 脳器質性疾患患者の睡眠周期、臨床脳波、18, 11-19, 1976
- 原田正純、高松誠、井上義人、阿部純子: カネミ油症（塩化ビフェニール中毒）小児の6年後の精神神経学的追跡調査、精神医学、19, 151-160, 1977
- 原田正純、藤野紓、樺島啓吉: 水俣における保存臍帯のメチル水銀に関する研究、脳と発達、9, 79-84, 1977
- 樺島啓吉、原田正純、丸林徹: 異所性松果体腫瘍の1例 — 経過、剖検所見、脳と神経、29, 453-459, 1977
- 原田正純、藤野紓: 慢性水俣病の治療、mercaptopyropionyl glycine について、日本医事新報、No. 2769, 18-22, 1977
- 原田正純、立津政順、三村孝一、友成久雄、高木元昭、住吉司郎、津嘉山毅、服部英世、南龍一: 一酸化炭素中毒後遺症、炭塵爆発により集団発生した患者の10年目の脳波、臨床脳波、19, 668-673, 1977
- 原田正純、村山英一、稲村芳美、大山繁、乙葉純一、森山茂、高橋等: 慢性水俣病の治療、Spironolactone について、日本医事新報、No.2788, 15-19, 1977
- 原田正純、津嘉山毅、立津政順: 水俣病の精神症状、症例報告を中心に、精神神経学雑誌、79, 393-413, 1977
- 樺島啓吉、南龍一、藤野紓、原田正純: 慢性水俣病における発作性症状と脳波所見、臨床脳波、19, 393-413, 1977
- Harada, M., Fujino, T., Akagi, T., Nishigaki, S.: Mercury contamination in human hair at Indian reserves in Canada, *Kumamoto Medical Journal*, 30, 57-64, 1977
- 原田正純、羽山圭男: マッドマンの絵 — パプアニューギニアにおけるバウムテストの試み、気質季報、11, 45-52, 1977
- 原田正純、大山繁、中村茂代志: 慢性進行性脳症を呈した先天性トキソプラズマ眼症、脳と神経、30, 1101-1107, 1978
- 石川博也、島崎朗、原田正純、南龍一、藤原紘一、大山繁、中村茂代志: 胎内原爆被爆による精神遅滞、30年後の精神症状、精神医学、20, 1179-1187, 1978
- 原田正純、藤野紓: 慢性水俣病の治療、Sodium valproate について、日本医事新報、No.2848, 29-34, 1978
- 原田正純、杉村謙、中村茂代志: トキソプラズマ症の脳波、臨床脳波、20, 795-799, 1978
- 原田正純、永山格: 有機水銀による精神遅滞、対照例との比較による臨床疫学的特徴、日本体質学雑誌、42, 91-98, 1978
- 堀田宣之、原田正純、服部陵子: 土呂久鉍毒病（慢性砒素中毒）の臨床的研究、体質医学研究所報告、29, 199-235, 1979
- 南龍一、原田正純: 夜間せん妄状態とREM睡眠との関係、臨床脳波、21, 315-323, 1979

- 原田正純、赤木健利、樺島啓吉：高圧電流による脳外傷、脳と神経、31, 1025-1031, 1979
- Harada, M., Fujino, T., Takahashi, H.: Effect of Tiopronin and Spironolactone in the treatment of chronic methyl mercury poisoning、体質医学研究所報告、29, 1-20, 1978
- 杉村謙、原田正純、樺島啓吉、立津政順、井上超、大山繁、東家暁、平田宗男：慢性二硫化炭素中毒のCT-scan 所見、脳と神経、31, 1245-1253, 1979
- 岸原千秋、大野秀樹、田中正人、原田正純：重金属汚染と尿中 b-2microglobulin および炭酸脱水素酵素アイソザイムC型について、最新医学、34, 1098-1101, 1979
- 原田正純、樺島啓吉、杉村謙、大山繁、立津政順：慢性二硫化炭素中毒（血管障害型）のCT-scan と脳波所見、臨床脳波、22, 420-426, 1980
- 原田正純、堀田宣之、永山格、宮崎美代子、樺島啓吉、他5名：振動病の精神神経学的研究、体質医学研究所報告、30, 143-172, 1980
- 藤野紮、板井八重子、原田正純：先天異常と環境汚染による有機水銀汚染の影響の研究、Laurence-Moon-Biedl 症候群をめぐる、日本体質学雑誌、44, 103-115, 1980
- 原田正純、永山格、江上昌三、南龍一、武原重春、他6名：心停止後15年間失外套症状群を呈した1例の睡眠特徴と経過、脳と神経、33, 283-290, 1980
- 原田正純、衛藤光明、桂木正一、武内忠男、立津政順、樺島啓吉、三嶋功、桑原麗雄：慢性に進行した重症小児水俣病の一剖検例、体質医学研究所報告、31, 219-233, 1981
- Harada, M.: Classification of the brain damaged patients sleep and its clinical application、体質医学研究所報告、31, 235-254, 1981
- Harada, M., Minami, R.: Nocturnal sleep in apallic syndrome or akinetic mutism、体質医学研究所報告、31, 255-270, 1981
- Harada, M., Minami, R., Tsukayama, T., Ohyama, S., Nakata, E., Maruno, Y.: Study of the sleep of patients with organic brain damage by poisoning、体質医学研究所報告、31, 271-276, 1981
- Harada, M., Nagayama, I., Minami, R., Tsukayama, T., Sugimura, K.: Characteristic sleep and pathological findings in patients with severe brain damage、体質医学研究所報告、31, 277-295, 1981
- 原田正純、衛藤光明、桂木正一、武内忠男：先天性（胎児性）水俣病の1例、13年目に見出された剖検例、精神神経学雑誌、83, 572-581, 1981
- 比良亮一、原田正純、武原重春、樺島啓吉、立津政順：Arachnoid Cyst を伴った先天性水俣病、脳と神経、34, 259-266, 1982
- 原田正純、鹿子木敏範、宮崎美代子：加齢が脳波に及ぼす影響の研究、中枢神経機能老化の1つの指標として、体質医学研究所報告、32, 27-39, 1982
- 原田正純、永山格、堀田宣之、鹿子木敏範、南龍一、大山繁：加齢が睡眠に及ぼす影響の研究、老年期精神障害の終夜睡眠ポリグラフ、体質医学研究所報告、32, 41-52, 1982
- 友成久雄、立津政順、安岡文恵、原田正純、三村孝一、住吉司郎：三池CO中毒患者10年後の実態、熊精協会誌、31号, 7-17, 1982
- 原田正純、堀田宣之、宮崎美代子、境多嘉子、松永哲夫：起立性調節障害様症状と中毒との関係について — 有機水銀、PCB 汚染地区小児の健康調査、日本体質学雑誌、46, 86-99, 1982
- 原田正純：Hypsarrhythmia, 失外套症状群を呈した重症水俣病の睡眠と脳病変、臨床脳波、24, 850-857, 1982
- 原田正純、立津政順、杉村謙、比良亮一：一酸化炭素（CO）中毒の脳波と後遺症、臨床脳波、25, 38-49, 1983
- 藤本佳澄、原田正純、広田茂、荒尾一正、藤野紮、板井八重子、熊谷芳夫：Locked-in 症候群の睡眠

- 脳波、失外套症状群と無動性無言症との比較、臨床脳波、25, 38-49, 1983
- 原田正純、森山茂、沼田陽市、宮川洸平、三浦節夫：長期てんかん薬服用患者における服薬時間と血中濃度の関係、精神医学、25, 741-747, 1983
- 弟子丸元紀、鈴木高秋、原田正純：アルコール性 Wernicke 病の経過中に出現した無動性無言症状態について — 状態像・脳波・終夜睡眠脳波による発生機序の検討、精神医学、25, 1163-1170, 1983
- Harada, M., Ohno, H., Fujino, T., Itai, Y., Doi, R., Nishino, M. : Erythrocyte carbonic anhydrase isoenzyme levels in patients with Minamata disease、*Bull. Inst. Const. Med., Kumamoto Univ.*、34, 321-325, 1984
- 藤野紓、板井八重子、原田正純：有機水銀汚染地区住民の臨床症状の遷移 — 比較的少量の汚染に関する臨床的研究、体質医学研究所報告、34, 541-558, 1984
- 衛藤光明、原田正純、三嶋功、藤野紓、板井八重子、武内忠男：水俣病の臨床と病理の比較検討 — 25年の経過をとった精神症状を伴う水俣病の一剖検例、神経病理学、5, 29-40, 1984
- 弟子丸元紀、藤本敏雄、原田正純：副腎皮質ステロイド剤使用による精神症状 — 状態像の特徴について、熊本医学会雑誌、57, 126-144, 1984
- Ohno, H., Doi, R., Tani, Y., Harada, M. : Mercury content of head hair from residents on the coast of Jakarta Bay、*Bulletin of Environmental and Contamination Toxicology*、33, 382-385, 1984
- Doi, R., Ohno, H., Harada, M. : Mercury in feathers of birds from the mercury-polluted area along the shore of the Shiranui, Japan、*Science of Total Environment*、30, 155-167, 1984
- Ohno, H., Yahata, T., Hipata, F., Yamamura, K., Doi, R., Harada, M., Taniguchi, N. : Changes in dopamine-b-hydroxylase, and copper, and catecholamine concentrations in human plasma with physical exercise、*J. Sports Med.*、24, 315-320, 1984
- 原田正純、大野秀樹、土井陸雄、谷洋一：ジャカルタ湾の重金属汚染、公害研究、14(2)、28-34, 1984
- 藤野紓、板井八重子、上拾石秀一、原田正純：有機水銀による環境汚染が住民の健康に及ぼす影響 — ある漁村地区の場合、アンケート調査と検診結果より、日本体質学雑誌、49, 139-153, 1985
- 原田正純、樺島啓吉：老年期せん妄と脳波、老年精神医学、2, 576-582, 1985
- 原田正純、土井陸雄：ボパール（インド）の毒ガス漏洩事件、労働の科学、41, 42-47, 1986
- 原田正純、永山格、境多嘉子、松永哲夫、緒方明：振動障害患者の睡眠障害、臨床脳波、28, 40-346, 1986
- 原田正純、堀田宣之、韓茂道：温山工業団地（韓国）の環境汚染、公害研究、16(4)、51-59, 1987
- 原田正純、堀田宣之、津田敏秀、柳楽翼、山本眞：石黄工場廃液による砒素中毒（中条町）、28年目の追跡調査、公害研究、17(3)、58-65, 1988
- 原田正純、斎藤岬：じん肺による肺性脳症、精神医学、30, 191-195, 1988
- 斎藤岬、原田正純、坂岡庸子、宮北隆志：天草地区じん肺患者の社会医学的調査、健康会議、40(3)、8-31, 1988
- 大野秀樹、藤野紓、原田正純、山下幸紀、山村晃太郎：水俣病認定患者におけるアスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ・アイソザイムの分画定量とピリドキサルリン酸、北海道公衆衛生誌、1(3)、75-78, 1988
- 津田敏秀、山本眞、柳楽翼、堀田宣之、原田正純：新潟県中条町におけるヒ素中毒患者の悪性新生物に関する疫学調査、労働医療、No.9, 16-24, 1988
- 原田正純、服部陵子、境多嘉子、市場尚文、三浦洋、山本征也：ベトナムにおける枯葉剤の健康に及ぼす影響について、公害研究、18(2)、28-35, 1988
- Doi, R., Raghupathy, L., Ohno, H., Naganuma, A., Harada, M.: A study of the sources of external metal contamination of hair、*Science Total Environ.*、77, 153-161, 1988

- Raghupathy, L., Harada, M., Ohno, H., Naganuma, A.: Methods of removing external metal contamination from hair samples for environmental monitoring, *Science Total Environ.*, 77, 141-151, 1988
- 大野秀樹、村江四郎、Luis Hoyo、土井陸雄、原田正純、澤田幸展、神山昭男、山村晃太郎：メキシコ市の医療従事者の頭髮総水銀濃度、北海道公衆衛生誌、1 (3), 119-121, 1988
- 原田正純：メチル水銀による胎内中毒、“胎児性水俣病” 26年間の経過観察と問題点、公害研究、18 (3), 8-11, 1989
- Ohno, H., Kondo, T., Doi, R., Harada, M., Yamamura, K., Yamashita, K., Taniguchi, N.: Carbonic anhydrase isoenzymes - with special reference to heavy metal poisoning, *J. Nor. Occ. Health*, 37, 14-20, 1989
- Tsuda, T., Nagira, T., Yamamoto, M., Kurumatani, N., Hotta, N., Harada, M.: Malignant neoplasms among residents who drink well water contaminated by arsenic from a King's Yellow Factory, *J. UOEH*, 11 (Suppl.1), 289-301, 1989
- 原田正純、三浦洋、山本征也、加藤治子、市場尚文、川合仁、井清司、梶原敬一：ベトナムにおける枯葉剤の健康に及ぼす影響について、社会医学研究、No.9, 75-79, 1990
- 原田正純：ベトナムにおける枯葉剤影響の調査報告、熊精協会誌、No.65, 8-26, 1990
- Harada, M.: Medical investigations into lingering chemical violence, AMPO, *Japan-Asia Quarterly Review*, 22(2-3), 94-98, 1991
- 原田正純：アジアにおける環境が健康に及ぼす影響、公害研究、21 (4), 26-31, 1992
- Ohno, H., Murae, S., Hoyoc, L., Doi, R., Harada, M., Sawada, Y., Kohyama, A., Yamamura, N.: Nivel Total de Mercurio del Cabello de Personal Medico en el Valle de Mexico, *Gac. Med. Pelinst. Sal. Edo. Mex.*, 1 (3), 132-134, 1991
- Tsuda, T., Babazono, A., Ogawa, T., Hamada, H., Harada, M., Inoma, S: Inorganic arsenic; A dangerous enigma for mankind, *Appl. Organometallic.Chemist.*, 6, 309-322, 1992
- 原田正純：アマゾン河流域（ブラジル）の水銀汚染、労働の科学、47(11), 631-635, 1992
- 原田正純：環境と先天異常、日本体質学雑誌、56(2), 16-24, 1993
- 山本征也、三浦洋、原田正純、境多嘉子、福原敏之、谷洋一、市場尚文、服部陵子、加藤春子、H. D. Cau、他：ベトナム戦争中に枯葉剤が散布された3地域での医学的調査、第2回国際シンポジウム「戦争における枯葉剤 — 人と自然への長期的影響」抄録集、51-62, 1993
- Harada, M.: Environmental contamination and human right, Case of Minamata disease, *Industrial & Environmental Crisis Quarterly*, 8(2), 141-154, 1994
- Akagi, H., Kinjo, Y., Branches, F., Malom, O., Harada, M., Pfeifer, W.C., Kato, H.: Methylmercury pollution in Tapajos River Basin, Amazon, *Environ. Science*, 3(1), 25-32, 1994
- 木村孝文、原田正純、宮北隆志、山口秀樹、他：振動障害の慢性期の症状、産業医学、36(4), 232-233, 1994
- Harada, M.: Minamata disease: Methylmercury poisoning in Japan caused by environmental pollution, *Critical Reviews in Toxicology*, 25(1), 1-24, 1995
- 原田正純、中西準子、小沼晋、大野浩一、赤木洋勝：ブラジル・アマゾン水域の採金による水銀汚染調査、公衆衛生、59(5), 307-311, 1995
- Akagi, H., Malm, O., Kinjo, Y., Harada, M., Branches, F.J.P., Pfeifer, W.C., Kato, H.: Methylmercury pollution in the Amazon, Brazil, *Sci. Total Environ.*, 175, 85-95, 1995
- Harada M.: Characteristics of industrial poisoning and environmental contamination in developing countries, *Environmental Science*, 4(Suppl.), 157-169, 1996

- 原田正純：地下水の砒素汚染、とくにアジアにおける、*労働の科学*、52(3), 154-158, 1997
- 原田正純：アジアにおける産業公害、*環境情報科学*、26(3), 14-19, 1997
- 原田正純、中地重晴、中西準子、小沼普、大野浩一、赤木洋勝、大野秀樹、趙岳人、浜田博隆、小野裕子、柳田耕一：金採掘労働と水銀による環境汚染、アマゾン河流域（ブラジル）とビクトリア湖（タンザニア）調査より、*環境と公害*、27(3), 9-15, 1998
- Harada, M., Nakanishi, J., Konuma, S., Ohno, K., Kimura, T., Yamaguchi, H., Tsuruta, K., Kizaki, T., Ookawara, T., Ohno, H.: The present mercury contents of scalp hair and clinical symptoms in inhabitants of the Minamata area, *Environ. Research*, 77, 160-164, 1998
- 原田正純：水銀と痴呆、老年期痴呆、12(4), 405-411, 1998
- 原田正純：胎児性水俣病、*周産期医学*、29(4), 448-451, 1998
- Harada, M., Nakachi, S., Cheu, T., Hamada, H., Ono, Y., Tsuda, T., Yanagida, K., Kizaki, T. and Ohno, H.: Monitoring of mercury pollution in Tanzania: relation between head hair mercury and health, *The Science of the Total Environment*, 227, 249-256, 1999
- Harada, M., Akagi, H., Tsuda, T., Kizaki, T., Ohno, H.: Methylmercury level in umbilical cords from patients with congenital Minamata disease, *The Science of Total Environment*, 234, 59-62, 1999
- 三村孝一、原田正純、住吉司郎、東家暁、高木元昭、藤田英介、高田明、立津政順：三池一酸化炭素中毒症の長期予後、33年目の追跡調査、*精神神経学雑誌*、101, 592-618, 1999
- Harada, M., Nakachi, S., Tasaka, K., Sakashita, S., Muta, K., Yanagida, K., Doi, R., Kizaki, T., Ohno, H.: Wide use of skin-lightening soap may cause mercury poisoning in Kenya, *The Science of the Total Environment*, 269, 183-187, 2001
- Harada, M., Nakanishi, J., Yasoda, E., Maria da Conceição N. Pinheiro, Oikawa, T., Geraldo de Assis Guimarães, Bernaldo da Silva Cardoso, Kizaki, T., Ohno, H.: Mercury pollution in the Tapajós River basin, Amazon. Mercury level of head hair and health effects, *Environment International*, 27, 285-290, 2001
- 原田正純：精神鑑定ノート、刑事事件の精神鑑定事例からみた精神障害と犯罪との関係に関する考察（1）、*社会関係研究*、8(2), 41-112, 2002
- 原田正純：戦争で使われた化学物質の影響、*化学物質と環境*、No.52, 4-7, 2002
- 原田正純：精神鑑定ノート、刑事事件の精神鑑定事例からみた精神障害と犯罪との関係に関する考察（2）、*社会関係研究*、9(1), 135-222, 2002
- 原田正純：水俣病における安全性の考え方、予防原則をめぐる、*環境ホルモン*、vol.3, 31-42, 2003
- 原田正純：精神鑑定ノート、刑事事件の精神鑑定事例からみた精神障害との犯罪の関係に関する考察（3）、*酩酊時犯行、社会関係研究*、9(2), 93-164, 2003
- 原田正純、下地明友：沖縄における精神医療の歴史と現状、*社会福祉研究所報*、32号, 167-208, 2004
- 下地明友、原田正純：沖縄医介輔の歴史と語りから見えてくるもの、*ライフ・ヒストリーと語り（Narrative）— 地域医療と沖縄の医介輔・中級医療職、社会福祉研究所報*、32号, 209-227, 2004
- Ohno, H., Doi, R., Kashima, Y., Murae, S., Kizaki, T., Hitomi, Y., Nakano, N., Harada, M.: Wide Use of Merthiolate May Cause Mercury Poisoning in Mexico, *Bulletin of the Environmental Contamination Toxicology*, 73, 777-780, 2004
- 原田正純：精神鑑定ノート、刑事事件の精神鑑定事例からみた精神障害と犯罪との関係に関する考察（4）、*覚せい剤中毒、社会関係研究*、10(1), 25-75, 2004
- 原田正純、花田昌宣、宮北隆志、藤野紓、鶴田和仁、福原明、大類義、中地重晴、荒木千史、田尻雅美、永野いつ香：長期経過後のカナダ先住民地区における水銀汚染の影響調査（1975-2004）、*環境と公害*、34(4), 2-8, 2005

- 原田正純：レーヨン工場における二硫化炭素中毒症の歴史と社会医学的考察、その教訓を活かすためにも、熊本学園大学論集「総合科学」、11(2), 127-186, 2005
- Harada, M., Fujino, T., Oorui, T., Nakachi, S., Nou, T., Kizaki, T., Hitomi, Y., Nakano, N. & Ohno, H.: Followup Study of Mercury Pollution in Indigenous Tribe Reservations in the Province of Ontario, Canada, 1975-2002, *Bull. Environ. Contam. Toxicol.*, 74, 689-697, 2005
- Harada M.; Minamata Disease and Mercury Pollution of the Globe, *Kor. J. Environ. Health*, 31, 151-155, 2005
- 原田正純、浦崎貞子、蒲池近江、荒木千史、上村早百合、藤野紓、下津浦明、津田敏秀：カネミ油症事件の現況と人権、社会関係研究、11(1・2), 1-46, 2006
- Yorifuji, T., Tsuda, T., Takao, S., Harada, M.: Long-Term Exposure to Methylmercury and Neurologic Signs in Minamata and Neighboring Communities, *Epidemiology*, 19(1), 3-9, 2008
- 原田正純：水俣病から見た“弱者”の視点、社会福祉学、49(3), 81-88, 2008
- Yorifuji, T., Tsuda, T., Takao, S., Suzuki, E., Harada, M.: Total Mercury Content in Hair and Neurologic Signs, Historic Date from Minamata, *Epidemiology*, 20(2), 1-6, 2009
- 原田正純、田尻雅美：小児性・胎児性水俣病に関する臨床疫学的研究 — メチル水銀汚染が胎児および幼児に及ぼす影響に関する考察、社会関係研究、14(1), 1-66, 2009
- 原田正純、頼藤貴志：不知火海沿岸住民の保存臍帯のメチル水銀値、水俣学研究、第1号, 151-167, 2009
- 原田正純、田尻雅美、山下善寛：環境病跡学 — 環境汚染による疾病の疫学的診断方法、社会医学研究、26(2), 53-73, 2009
- Yorifuji, T., Kashima, S., Tsuda, T., Harada, M.: What has methylmercury in umbilical cords told us? — Minamata Disease, *Science of the Total Environment*, 408, 272-276, 2009
- 原田正純、三村孝一、高木元昭、藤田英介、住吉司郎、宮川洗平、堀田宣之、藤野紓、小鹿原健一、本岡真紀子：三池三川鉱炭じん爆発から40年、一酸化炭素中毒の長期予後、社会関係研究、15(2), 1-42, 2010
- 原田正純、下地明友、田尻雅美、井上ゆかり、藤野紓、川上義信、高岡滋、池田龍己、板井八重子、岩田勘司、大石弘史、門祐輔、樺島啓吉、酒井保之、塩川哲男、鈴木健世、荒木重夫、田中久、戸倉直美、三宅徹也、元倉福雄：不知火海沿岸住民の有機水銀の影響に関する研究、不知火海沿岸住民健康調査報告、水俣学研究、第2号, 61-86, 2010
- Yorifuji, T., Tsuda, T., Kashima, S., Takao, S., Harada, M.: Long-term Exposure to methylmercury and effects on hypertension in Minamata, *Environmental Research*, 110, 40-45, 2010
- 佐藤忠司、原田正純：水俣湾岸地域に居住して出生前後に有機水銀暴露を受けたと推定される人たちの46～67年後の人格像、新潟青陵大学大学院臨床心理学研究、4, 5-10, 2010
- 藤野紓、原田正純、高岡滋、他：不知火海大検診により新たに確認されたメチル水銀による健康影響の広がり、月刊保団連、1055, 130-132, 2011
- 原田正純、浦崎貞子、蒲池近江、田尻雅美、井上ゆかり、堀田宣之、藤野紓、鶴田和仁、頼藤貴志、藤原寿和：カネミ油症被害者の現状、40年目の健康調査、社会関係研究、16(1), 1-53, 2011
- 原田正純、花田昌宣、田尻雅美、井上ゆかり、堀田宣之、藤野紓、高岡滋、上田啓司：カナダ・オンタリオ州先住民地区における水銀汚染 — カナダ水俣病の35年間、水俣学研究、3, 3-31, 2011

論説・エッセイ等

- 「先天性水俣病 — 母体内で起った有機水銀中毒」(立津政順との共著) 保健の科学、6, 400-403, 1964
- 「子宮内中毒による精神薄弱」(立津政順との共著) 神経研究の進歩、12, 181-190, 1968

- 「この病苦に軽量があるのか（告発された水俣病の重大局面）」朝日ジャーナル、12(23), 117-120, 1970
- 「脳器質障害と睡眠」最新医学、26, 65-73, 1971
- 「潜在性水俣病」科学、41(5), 250-258, 1971
- 「水俣病の前に水俣病なし — 医学者としての視点」朝日ジャーナル、13(9), 40-41, 1971
- 「水俣病の実態 — その後、10年後の水俣病研究班報告書をめぐって」労働の科学、27, 60-64, 1972
- 「告発と討議と研究の祭り（国連人間環境会議レポート）」環境、9号, 130-132, 1972
- 「水俣病の概念」法律時報、44(5), 41-43, 1972
- 「長期経過した水俣病の臨床的研究」精神神経学雑誌、74, 668-678, 1972
- 「公害と国民の健康」ジュリスト（特集・医療と人権）、No. 548, 128-132, 1973
- 「水俣病 — その概念と今後の課題」いのち81(7), 10-18, 1973
- 「第二、第三の水俣病をもたらしたもの シンポジウム：公害・薬害と人間の権利」中央公論、1973年8月号, 149-152, 1973
- 「環境における長期微量汚染の人体に及ぼす影響」公衆衛生、37, 171-175, 1973
- 「Clinical and Epidemiological Studies on Minamata Disease」日本体質学雑誌、38, 20-28, 1974
- 「Clinical Studies on “Congenital” Minamata Disease」日本体質学雑誌、38, 29-34, 1974
- 「中毒性疾患と頭痛」診断と治療、49(7), 1138-1143, 1974
- 「水俣病の認定の遅れを問う — 認定とは医学にとって何か」ジュリスト、No.579, 44-51, 1974
- 「脳器質性疾患における睡眠特性」臨床精神医学、4, 1021-1030, 1975
- 「素人と専門家 — 水俣のことなど」熊精協会誌、3, 2-5, 1975
- 「欧米の旅行先より 鹿子木先生他皆様へ」熊精協会誌、4, 11-22, 1975
- 「原点への報告、インディアンの水俣病のこと」季刊不知火、2, 71-84, 1975
- 「カナダにおける水銀汚染問題」（赤木健利、藤野紘と共著）、日本の科学者、10(11), 511-514, 1975
- 「水俣症候群をみつめて〈自主講座講義録〉」季刊不知火、5, 33-54, 1976
- 「カナダ・インディアン考 — アルコール問題について」気質季報、9, 17-26, 1976
- 「脳器質性疾患患者の睡眠周期」臨床脳波、18, 11-19, 1976
- 「一酸化炭素中毒」総合臨床、25, 1146-1151, 1976
- 「赤脚医生（はだしの医者）考」熊精協会誌、11, 20-28, 1977
- 「現在の水俣病の問題点、その背景と歴史」公害研究、6(3), 49-60, 1977
- 「水俣（その実態と今日の課題）」九州公論、6月号, 12-16, 1977
- 「ポーランドの旅」気質季報、12, 44-47, 1978
- 「Minamata Disease as a Social and Medical Problem」Japan Quarterly、25(1), 20-34, 1978
- 「Congenital Minamata Disease: Intrauterine Poisoning」Teratology、18, 285-288, 1978
- 「水俣から土呂久へ — 公害病の概念について」、公害研究、7(4), 38-39, 1978
- 「私に教え、勇気づけるもの — 川本裁判上告審への意見書」、思想の科学、第6次(92), 122-139, 1978
- 「水俣病事件における裁判と今後の課題」ジュリスト（総合特集）、No.15, 12-16, 1979
- 「ベネズエラの水銀汚染事件」（堀田宣之との共著）公害研究、10(2), 53-57, 1980
- 「中南米の環境問題について（環境汚染を追って）」気質季報、15号, 54-65, 1980
- 「中南米環境調査団報告 近代化と神秘さの国々」熊精協会誌、26, 24-33, 1981
- 「世界の水銀による環境汚染事件」公害研究、11(4), 29-37, 1982
- 「九州地方における公害・労災・薬害 — その概要と問題点」社会医学研究、3, 46-68, 1982
- 「体質とは何か、その考え方と問題点 中毒学、神経科学の立場から」日本体質学雑誌、46, 34-43, 1982
- 「水俣と三池をもって中国へ」気質季報、16, 39-48, 1982
- 「水俣病の認定制度と医学的実態」公害研究、13(1), 23-29, 1983

- 「胎児に対する傷害致死罪 — 胎児性水俣病の刑事責任」日本医事新報、No.3088, 95-98, 1983
- 「金武湾の開発と環境汚染」公害研究、13(3), 8-15, 1984
- 「タイの環境問題（上）、タイの水汚染」（飯島伸子との共著）公害研究、13(4), 31-41, 1984
- 「睡眠について」熊精協会誌、40号, 24-41, 1984
- 「公害被害者福祉 — 補償給付と福祉事業」ジュリスト（総合特集「転換期の福祉問題」）、No.41, 224-225, 1984
- 「水俣病と白川健一先生」、科学、54(6), 366-369, 1984
- 「ナルコレプシー」総合臨床、34, 459-462, 1985
- 「ボパール事故の後遺症を追って」（土井隆雄との共著）科学朝日、9月号, 116-120, 1985
- 「薬物による中毒、精神神経科の立場から」しのめ医学会誌、9, 4-19, 1985
- 「ボパール・ガス中毒の後遺症（6か月後の状況と問題点）」技術と人間、臨時増刊, 120-123, 1985
- 「住民大量死（ジェノサイド）の現場・ボパール報告」気質季報、17, 23-32, 1985
- 「公害病の立場から」月刊いのち、223・224, 61-64, 1985
- 「水俣病第二次訴訟控訴審判決と補償問題」公害研究、15(3), 48-55, 1986
- 「救済を遅らすものは誰か？（水俣病の現況）」思想の科学（6月臨時増刊号）、No.78, 22-31, 1986
- 「医学・医学者と水俣病」文化評論、No.311, 166-171, 1987
- 「精神医学の将来と現在に想う」日本精神病院協会誌、6(1), 33-36, 1987
- 「羊角湾総合開発事業と羊角湾訴訟判決」公害研究、17(2), 66-68, 1987
- 「環境破壊と人類の未来、胎児性水俣病」公明、63(1), 90-97, 1988
- 「水俣病事件史における刑事事件の意義」労働の科学、43(8), 31-40, 1988
- 「水俣をアジアに伝えて」住民と自治、317号, 36-41, 1989
- 「有機水銀中毒研究の最近の動向、IPCS 報告書をめぐって」公害研究、19(2), 12-15, 1989
- 「天草の開発と環境」（中島真一郎との共著）公害研究、18(3), 28-32, 1989
- 「メチル水銀（水俣病原因物質）の環境保護基準をめぐる最近の動向」法と民主主義、No.245, 22-25, 1990
- 「ベトナム枯れ葉剤被害、国際協力の動き」科学、60(5), 307-309, 1990
- 「No 広島, No 水俣, No ボパール（上）」愛農、489号, 5-15, 1990
- 「No 広島, No 水俣, No ボパール（下）」愛農、490号, 10-23, 1991
- 「水俣の意見を世界に」水情報、10(12), 3-7, 1990
- 「水俣病事件における和解勧告」公害研究、20(3), 21-26, 1991
- 「市民・労働者のための安全性」自治体安全衛生研究、2-4, 1991
- 「アジアの職業病・公害病を考える」安全センター情報、2月号, 1-7, 1992
- 「水俣の最近の動向」公害研究、21(3), 53-58, 1992
- 「Man-Made Tragedy」Look Japan、Vol.38, No.438, 32-33, 1992
- 「History of Minamata Disease, The End of Minamata Disease Not Yet in Sight」Water Report, Quality, Resources and Technology、2(4), 1-3, 1992
- 「水俣の子どもたち、胎児性水俣病」大阪小児科学会誌、10, 27-33, 1993
- 「日本からの医師の証言「産業被害と人権」」安全センター情報、93(2), 4-5, 1993
- 「二硫化炭素中毒の実態とこれからの課題」安全センター情報、94(2), 8-13, 1994
- 「振動病の病像論を問い直す」安全センター情報、94(9), 3-12, 1994
- 「水俣から世界がみえる」労働の科学、49, 720-724, 1994
- 「水俣病をめぐる」日本精神病院協会誌、13(10), 10-15, 1994
- 「薬害と公害の接点、胎児障害」環境と公害、24(2), 32-38, 1994

- 「水俣病は終わっていない、水俣病と世界の水銀汚染」東京、No.153, 1-12, 1995
- 「水俣病が教えるもの」環境情報科学、24(4), 75-77, 1995
- 「水俣病40年、教訓は活かされたか」資源環境対策、32(2), 120-126, 1996
- 「産業災害と周産期障害」周産期医学、26(2), 235-237, 1996
- 「水俣病は終わらない、40年めの解決策について」労働の科学、51(4), 250-253, 1996
- 「水俣40年と戦後社会」神奈川大学評論、24号, 38-48, 1996
- 「水俣病解決と病像論」法律時報、68(10), 15-21, 1996
- 「アジアの産業公害、水俣からみるその現場」世界、629号, 87-93, 1996
- 「水俣病と差別」部落、48(10), 33-39, 1996
- 「葉害エイズー 過ちは繰り返された」エコノミスト、74(13), 75-77, 1996
- 「水俣病事件史研究のはじまり」環境と公害、26(3), 56-61, 1997
- 「アジアの産業公害」国際協力、No.505, 6-9, 1997
- 「見よう、聞こう、言おう」トリートメント、40号, 80, 1997
- 「タンザニアと出会う」熊精協会誌、92, 48-50, 1997
- 「梅檀の木の下で」熊本文化、278号, 10, 1997
- 「アジアにおける産業公害」環境情報科学、26(3), 14-19, 1997
- 「労災と環境問題のドッキングで展望を切り拓こう」安全センター情報、1・2月号, 2-6, 1998
- 「また1つ水俣病の謎が解けた」環境と公害、27(4), 1, 1998
- 「胎児性水俣病から環境ホルモンへ」科学、68, 513, 1998
- 「職業病と公害病、水俣病は予見できた、エコメヂカル・エッセイ (1)」労働の科学、54(4), 50-53, 1999
- 「金鉱山と水俣病、アマゾン（ブラジル）へ、エコメヂカル・エッセイ (2)」労働の科学、54(6), 38-47, 1999
- 「アマゾン川流域の水俣病、水俣への旅 (1)」水俣フォーラム News、No6, 8-13, 1999
- 「水俣に学ぶ」高崎経済大学論集、42(1), 101-104, 1999
- 「チッソ労働者と水俣病、エコメヂカル・エッセイ (3)」労働の科学、54(8), 512-515, 1999
- 「農薬工場から毒物が、化学兵器工場か農薬工場か、エコメヂカル・エッセイ (4)」労働の科学、54(10), 37-41, 1999
- 「最初マンガン中毒が疑われた水俣病、エコメヂカル・エッセイ (5)」労働の科学、54(12)、46-50, 1999
- 「大いなる遺産」熊精協会誌、99, 19-21, 1999
- 「いのちの原点から環境教育を考える」保健室、No85, 3-10, 2000
- 「水俣病の源泉、イトムカ鉱山、エコメヂカル・エッセイ (6)」労働の科学、55(2), 127-131, 2000
- 「医学における認定制度の政治学、水俣病の場合を中心に」思想、No908, 103-123, 2000
- 「枯葉剤と林業労働者、エコメヂカル・エッセイ (7)」労働の科学、55(4), 253-257, 2000
- 「世界の環境汚染現場に行く、世界から日本をみる」日本農村医学会雑誌、48(6), 809-814, 2000
- 「人として生きるために、水俣の旅は続く」まなぶ、No.503, 68-71, 2000
- 「閉じられた炭鉱と「忘れられた患者たち」、1963年三池炭鉱炭じん爆発とその後」社会福祉研究所報、28号, 47-66, 2000
- 「負の遺産としての水俣学事始め」パイディア、Vol.5. 6, 26-28, 2000
- 「銀山温泉と鉱山災害、エコメヂカル・エッセイ (8)」労働の科学、55(6), 387-391, 2000
- 「「負の遺産」としての水俣学」心と社会、31(2), 136-142, 2000
- 「毒ガス島、環境汚染は弱者に集中する、エコメヂカル・エッセイ (9)」労働の科学、55(8), 522-526, 2000

- 「労働者を蝕む二硫化炭素ガス、職業病輸出、エコメヂカル・エッセイ (10)」労働の科学、55(10), 661-665, 2000
- 「武谷三男と水俣病裁判」技術と人間、9月臨時増刊号、46-50, 2000
- 「水俣病と世界の水銀汚染」鹿児島市医報、39(9), 4-20, 2000
- 「水俣病と廃水」INDUST、16(10), 30-33, 2000
- 「水俣からのメッセージ (1)」水情報、20(9), 10-16, 2000
- 「環境問題を追って」日本精神神経科診療所協会誌、6(4), 18-46, 2000
- 「カネミ油症は終わっていない、エコメヂカル・エッセイ (11)」労働の科学、55(12), 784-788, 2000
- 「環境と健康 20世紀の遺産」食べもの文化、No.286, 24-28, 2001
- 「古くて新しい中毒、アジアにおける深刻な砒素中毒、エコメヂカル・エッセイ (12)」労働の科学、56(2), 104-108, 2001
- 「水俣の教訓から新しい学問への模索」環境と公害、30(3), 27-32, 2001
- 「水俣からのメッセージ (2)」水情報、21(2), 7-13, 2001
- 「私が水俣病から学んだこと、21世紀の環境教育への提言」学校保健研究、42(6), 470-473, 2001
- 「水俣病五五年の生涯の問いかけ」水俣はたるの家便り、第19号, 1-2, 2001
- 「いのちを大切にするとところから (特集・あなたが考える科学とは)」科学、71, 423-425, 2001
- 「熊本発の二つのメッセージ」潮、511号, 67-69, 2001
- 「水俣病関西高裁判決」環境と公害、31(2), 68-70, 2001
- 「Grassroots Movements by Minamata Disease Victims (シンポジウム アジアにおける環境問題と草の根運動)、国際基督教大学学報Ⅲ-A、アジア文化研究、別冊10号、255-263, 2001
- 「胎児性水俣病から環境ホルモンへ」洗剤・環境科学研究会誌、25(1), 89-92, 2001
- 「立津政順教授時代の臨床的研究の足跡 ― とくに、臨床中毒学について」『熊本大学医学部神経精神医学講座開講百周年記念誌』、pp.146-154、熊本大学医学部神経精神医学講座、2002
- 「漁村「水俣」から世界の環境問題への教訓」日農医誌、50, Suppl., 194-195, 2002
- 「韓国にも川辺川があった」環境と公害、32(1), 1, 2002
- 「アジアの環境問題は今、「地球と台所をつなぐ環境問題」」1998年度コープ環境講座報告書、2002
- 「「不屈の闘病生活」田上義春さんのカルテから」、季刊「魂うつれ」、第11号, 15-17, 2002
- 「飯島伸子さんとの研究の軌跡 環境問題とともに」飯島伸子先生追悼文集、181-183, 2002
- 「土壌・地下水汚染 ― 広がる重金属汚染」環境と公害、32(2), 69, 2002
- 「いのちの循環」Anjali、No.4, 12-15, 2002
- 「戦争で使われた化学物質の影響」化学物質と環境、No.52, 4-7, 2002
- 「飯島伸子さんを悼む」環境と公害、31(3), 71, 2002
- 「有難うございました。三浦節夫先生」熊精協会誌、113, 10-13, 2002
- 「(鹿子木敏範教授への) 弔辞」熊精協会誌、114, 8-9, 2003
- 「公害の原点としての水俣病」公衆衛生、67(2), 138-142, 2003
- 「公害における差別の構造」公衆衛生、67(4), 301-305, 2003
- 「世界の公害現場」しのめ医学会誌、26, 13-15, 2003
- 「水俣病から地域保健・医療・福祉を考える」新潟青陵大学紀要、第3号, 257-262, 2003
- 「公害被害者と医学」環境と公害、33(1), 23-28, 2003
- 「水俣病に学ぶ」部落解放研究くまもと、第46号, 5-32, 2003
- 「水俣病における安全性の考え方」環境ホルモン、3, 31-42, 2003
- 「地球環境を考える ― 水俣病を原点として」税経新報、506, 39-46, 2003
- 「水俣病から学ぶもの」日本歯科医学教育学会誌、19(1), 5-11, 2003

- 「三池炭じん爆発四十周年に思う」社会評論、第136号、2-3、2004
- 「毒ガス島、犬も歩けば棒にあたる」環境と公害、33(4)、1、2004
- 「川本輝夫の水俣病史」水俣病研究、第3号、188-200、2004
- 「カネミ油症の35年から見えてくるもの」ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議ニュース・レター、29、2-3、2004
- 「子宮は環境・未来、胎児性水俣病の子どもたちからのメッセージ」保育問題研究、209、10-16、2004
- 「水俣からのメッセージ」福祉と協働、10、36-59、2004
- 「水俣学の模索、負の遺産を未来へ」救現、No.9、2-13、2005
- 「水俣病のグローバルな視点」公衆衛生、69、308-312、2005
- 「水俣病からの教訓」廃棄物学会C & G、9、18-25、2005
- 「研究室からフィールドへ」地域研究、7(1)、13-46、2005
- 「水俣病の歴史と現実は何を問いかけているか — 「水俣学」の取り組みから」環境と公害、35(1)、10-14、2005
- 「労働科学と私、一酸化炭素中毒と二硫化炭素中毒」労働の科学、60(9)、32-35、2005
- 「キラ・ファイバー（殺人繊維）の恐怖」月刊保団連、No.876、2005
- 「水俣病と石牟礼道子」道標、11号、21-45、2005
- 「川本輝夫さんとカナダ先住民の奇妙な縁」、川本輝夫『水俣病誌』付録、5-7、2005
- 「水俣病問題は終わっていない」環境と公害、35(2)、2-3、2005
- 「なぜ今、水俣学か — 現場からの学問の捉え直し」保健医療社会学論集、16(2)、1-15、2005
- 「水俣病の歴史と教訓」『水俣病問題の概要』（衆議院調査局環境調査室）、pp.71-77、2006
- 「水俣病は終わっていない、公式確認から50年」論座、6月号、200-209、2006
- 「水俣病50年の負の遺産と水俣学」環、25、273-284、2006
- 「家鴨は河で遊ぶもの」環境と公害、36(1)、65、2006
- 「救済を抑制する認定制度、終わらせてはならない水俣病」都市問題、97(8)、9-16、2006
- 「尊厳死法制化に反対する」健康保険、8月号、30-32、2006
- 「胎児性水俣病の教訓」化学史研究、33(2)、108-110、2006
- 「あゝ！戦友三村孝一」熊精協会誌、128、61-64、2006
- 「水俣病が人類にもたらした意味」THE LUNG、15(1)、98-101、2007
- 「水俣学の模索、水俣病から人権と医療を考える」月刊保団連、No.924、57-63、2007
- 「水俣病における差別」THE LUNG、15(2)、231-234、2007
- 「じん肺と毒ガス」THE LUNG、15(3)、355-358、2007
- 「医療からみた水俣病事件報道」マス・コミュニケーション研究、71号、2-13、2007
- 「毒ガスと農薬」THE LUNG、15(4)、504-507、2007
- 「水俣病と研究者」環境監視、118号、1-6、2007
- 「Intrauterine Methylmercury Poisoning, Congenital Minamata Disease」Korean Journal of Environmental Health、33(3)、175-179、2007
- 「水俣病50年、水俣病は終わっていない」環境と公害、37(3)、64-66、2008
- 「水俣病患者とともに五〇年」部落解放研究くまもと、第55号、3-42、2008
- 「水俣病は人類の宝」水俣フォーラムNEWS、32号、4-16、2008
- 「水俣学が目指すもの」不知火海・球磨川流域学会誌、2(1)、3-13、2008
- 「いのちを考える — 終末期医療の議論のために —」月刊保団連、No.974、16-19、2008
- 「胎児性水俣病の教訓」化学史研究、35(2)、87-89、2008
- 「水俣にまなぶ — 命の価値」菊地野、第640号、18-30、2008

- 「環境汚染の現状 — 重金属を中心として」アンチ・エイジング医学、4(6), 736-739, 2008
- 「水俣にまなぶ — いのちの価値」日本ハンセン病学会誌、78, 55-60, 2009
- 「水俣からのメッセージ — 豊かな時代を生きる君たちへ」人間・科学・宗教・オープン・リサーチ・センター2009年度報告書、pp.106-119、龍谷大学、2009
- 「水俣に導かれて」土と健康、No.408, 7-18, 2009
- 「水俣病、三池一酸化炭素中毒と高次脳機能障害」臨床精神医学、38, 1629-1637, 2009
- 「水俣病から学んだこと（特集 スティグマの障害学 シンポジウム）」障害学研究、6, 18-22, 2010
- 「水俣病と星野さん」技術史研究、79, 16-18, 2010
- 「水俣病特措法の欺瞞的内容」ネットワーク・ニュース、No.20, 11-13, 2010
- 「宝子にまなぶ」小児科診療、73, 330-331, 2010
- 「水俣のかかわりから命を考える」社会福祉士、第17号, 53-65, 2010
- 「水俣の未来へ〜水俣学研究5年のあゆみ〜」水俣学研究、第2号, 5-22, 2010
- 「水俣学 — 精神科医としての有機水銀中毒との係わり」九州神経精神医学、56(1), 1-4, 2010
- 「水俣学と谷中学」図書、第738号, 21-23, 2010
- 「食品公害 — 水俣病が問いかけるもの」人権と部落問題、No.810, 31-39, 2011
- 「水俣病と水銀条約」廃棄物資源循環学会誌、22(5), 337-343, 2011
- 「いま、水俣学が示唆すること（特集 リスクの語られ方）」科学、82(1), 68-72, 2012
- 「水俣病から現代社会を考える — 水俣学と三・一一福島」ヒューマンライツ、No.290, 2-9, 2012
- 「絶筆「5・1」を考える：水俣病公式確認56年」環、51, 645-67, 2012
- 「水俣学のとびら（公開講演会報告）」筑紫女学園大学・短期大学部人間文化研究所報、23, 259-284, 2012
- 「水俣病事件史から学ぶ 水俣からのレイト・レッスン第2回」保健師ジャーナル、68(7), 630-635, 2012

その他

- 「語り言葉があぶり出す民衆の差別構造 岡本達明編『近代民衆の記録7・漁民』」朝日ジャーナル、20(44), 67-69, 1978
- 「書評三題」気質季報、14, 24-31, 1979
- 「座談会 水俣病問題を国民に訴える」公害研究、11(4), 40-50, 1982
- 「カナダ・インディアン水銀中毒事件の現状 — ジョン・オルシス博士に聞く」(Olthius John、原田正純、宮本憲一)、公害研究、13(1), 49-52, 1983
- 「座談会 国際的な水銀問題に関する安全基準をめぐって（司会）」公害研究、19(2), 16-24, 1989
- 「自著を語る『水俣が映す世界』」公害研究、19(3), 67-68, 1990
- 「公害の映し出す世界 — 環境問題を見る視点」(原田正純、宮本憲一、清水誠)、法律時報、62(1), 6-22, 1990
- 「世界の“水俣病”を食いとめるために水俣病の真の解決が必要だ（この人と1時間）」エコノミスト、71(12), 84-87, 1993
- 「座談会『戦争の記憶』 — 戦後50年を省みて」熊精協会誌、85, 29-55, 1995
- 「座談会 水俣病事件の「解決」に思う」環境と公害、25(2), 29-35, 1995
- 「対談 日本人の病気・病態（11）水俣病」最新医学、52(7), 1629-1644, 1997
- 「対談 いのちの価値を考える」(原田正純・小笠原嘉秀) NHK学園CSネットワーク第3回全国大会 in 熊本記録集、6-32, 1999

- 「対談 水俣病を語り継ぐ」(原田正純・樽谷修) 群馬評論、80号, 92-100, 1999
- 「特別座談会 公害・環境研究の30年」環境と公害、30(1), 30-37, 2000
- 「水俣の問いと可能性、「水俣学」への想像力を求めて」(シンポジウム 富樫貞夫・羽江忠彦・原田正純・花田昌宣) 社会関係研究、7(1), 1-54, 2000
- 「魂のある世界、石牟礼道子著「樫の海の記」」熊本子どもの本の研究会編「わたしの一冊」、しもだ印刷、2001
- 「書評 水俣病の科学(西村肇、岡本達明著)」環境と公害、31(3), 70, 2002
- 「推理と実証、水俣病とは一体何であったのか(西村肇、岡本達明著、水俣病の科学、日本評論社)」d/SIGN, No2, 94-95, 2002
- 「書評 土壌・地下水汚染、広がる重金属汚染(畑明郎著)」環境と公害、32(2), 69, 2002
- 「座談会 軍事と環境」環境と公害、32(4), 14-21, 2003
- 「座談会 今、なぜ水俣病問題か ― 公式発見50年に向けた課題を考える」環境と公害、35(2), 51-59, 2005
- 「インタビュールーム(624) 原田正純さん(七〇)」厚生福祉、5285, 10, 2005
- 「座談会 中国の公害被害解決をめぐる状況と日本の協力」環境と公害、36, 36-44, 2006
- 「心の貌 昭和史事件史発掘(9) 三井三池炭塵爆発」(柳田邦男、櫻井よしこ、原田正純)、文芸春秋、84(1), 350-361, 2006
- 「この人に聞く 水俣病問題と向き合いつづけて」(原田正純、小野達也)、地域福祉研究、40, 89-101, 2012

国際学会・特別講演・シンポジウム

- 「失外套症状群(シンポジウム)、生理学的側面について」第63回日本精神神経学会、東京、1966
- 「水俣病その後(シンポジウム)、10年後の水俣病の臨床的研究」第68回日本精神神経学会、東京、1971
- 「Clinical Studies in Congenital Minamata Disease」第3回アジア・大洋州神経学会、ボンベイ、インド、1971
- 「Clinical and Epidemiological Studies on Minamata Disease, A Report from the Recent Survey」Toxic Action of Heavy Metal in Our Environment(シンポジウム)、第1回国際環境汚染学会、ストックホルム、1972
- 「重症脳器質障害患者の睡眠特性、とくにREM期睡眠を中心にした睡眠リズムの検討」第10回脳シンポジウム、東京、1974
- 「Epidemiological and Clinical Study of Mercury Pollution on Indian Reservations in Northwestern Ontario, Canada」国際環境保全会議、京都、1975
- 「Characteristic Sleep and Pathological Findings in Patients with Severe Brain Damage」第3回国際睡眠学会、東京、1979
- 「Sleep Disorders in Vibration Disease」第20回米州睡眠学会、メキシコ市、メキシコ、1980
- 「Study of Sleep in Poisoning with Organic Brain Damage」第20回米州睡眠学会、メキシコ市、メキシコ、1980
- 「九州における公害・職業病、その後の問題点(シンポジウム)」第22回日本社会医学研究会、二日市市、1981
- 「体質とは何か ― 中毒学・神経科学の立場から(パネルディスカッション)」第31回日本体質学会総会、旭川市、1981
- 「Intrauterine Methylmercury Poisoning (Congenital Minamata Disease)- Serial Investigation for 20

- Years」第12回国際神経学会、京都、1981
- 「Background of the Frequent Occurrence of Environmental and Occupational Disease in Kyushu」第10回世界社会精神医学会、大阪、1983
- 「Comparative Study of Congenital Disease in Japan」第10回世界社会精神医学会、大阪、1983
- 「Seasonal Changes in the Birth of Fetal Minamata Disease Patients」第10回国際生理気象学会、東京、1984
- 「不知火海の環境変化 — 生物と漁業、人の健康被害」第9回トヨタ財団シンポジウム「環境学の展望と課題」、東京、1985
- 「The Latest Issue of Environmental Contamination in Japan (Plenary session)」第3回アジア農村医学会、ソウル市、韓国、1985
- 「Analysis of Methylmercury and Other Materials in Preserve Umbilical Cords」第3回アジア農村医学会、ソウル市、韓国、1985
- 「The Human Effects of Environmental Mercury Contamination」水管理に関する国際ワークショップ、ボパール、インド、1986
- 「Analysis of Methylmercury and Other Materials in Preserved Umbilical Cords, The Indexes of Environmental Pollution」水管理にする国際ワークショップ、ボパール、インド、1986
- 「Japan's Experiences of Mine Pollutions」鉱山および関連企業の環境問題に関する国際シンポジウム、ニューデリー、インド、1986
- 「1. The Effects on Embryos by Chemicals in Japan」「2. The Crisis of Chemical Factory」国際セミナー「現代科学の危機」ペナン、マレーシア、1986
- 「水質汚染による健康被害の問題点（シンポジウム）」第28回社会医学研究会、名古屋市、1987
- 「Environmental and Occupational Disease in Japan and Bhopal Tragdy (Special lecture)」タイ産業医学会研修会、ILO、バンコック市、タイ王国、1987
- 「Intrauterine Methylmercury Poisoning "Congenital Minamata Disease", A 30-years' Serial Investigation and Its Problems. (シンポジウム)」International Forum on the Minamata Disease、熊本市、1988
- 「Occupational and Environmental Poisoning in Japan. (Special lecture)」12th Asian Conference on Occupational Health、ボンベイ市、インド、1988
- 「Health Survey of Human Effects of Herbicides in South Vietnam」The 5th Asian Congress on Rural Medicine、バンコック市、タイ王国、1990
- 「体質からみた先天異常（シンポジウム）、環境と先天異常」第41回日本体質学会総会、宮崎市、1991
- 「Aspects of Minamata Disease, A Medical Analysis」(国際シンポジウム) Industry, The Environment and Human Health, In Search of a Harmonious Relationship、水俣市、1991
- 「Occupational Diseases Complicated by Diseases Caused by Environmental Pollution」13th Asian Conference on Occupational Health、バンコック市、タイ王国、1991
- 「Consideration on Pollution in Asia and Its Relation with Japan」1st Asia-Pacific NOGs Environmental Conference、バンコック市、タイ王国、1991
- 「Methyl Mercury (シンポジウム)、Minamata Disease; Its Epidemiological and Clinical Study」28th Congresso da Sociedade Brasileira de Medicina Tropical、ベレン市、ブラジル、1992
- 「Minamata Disease and Other Environmental Pollution in Japan (Special lecture)」28th Congresso da Sociedade Brasileira de Medicina Tropical、ベレン市、ブラジル、1992
- 「Health Effects of Environmental Pollution in Japan (Special lecture)」Hanoi University School of Medicine、ハノイ市、ベトナム、1993

- 「The Health Problem Caused by Environmental Contamination in Asian Countries」“Environmental Problem in Asian Societies” (国際シンポジウム)、東京、1993
- 「環境と人権 (特別講演)」全国地域医療研究会総会、別府市、1993
- 「Mercury Contamination in Amazon Basin」“Assessment of Environmental Pollution and Health Effects from Methylmercury” (WHO シンポジウム) 熊本市、1993
- 「日本の二硫化炭素中毒の実態とこれからの課題」日韓共同労働災害・職業病 (シンポジウム)、ソウル市、韓国、1993
- 「Study on the Effect of Dioxin on Embryos, Comparative Study of Congenital Disease」“Herbicides in War; The Long Term Effects on Man and Nature” (第2回国際シンポジウム)、ハノイ市、ベトナム、1993
- 「Congenital Minamata Disease; Intrauterine Methylmercury Poisoning」The 6th International Symposium on “Developmental Disabilities” (国際シンポジウム)、東京、1993
- 「Survey on the Effects of Herbicides on Human Health in South Vietnam」The 6th International Symposium on “Developmental Disabilities” (国際シンポジウム)、東京、1993
- 「世界の公害 (特別講演)」第21回日本精神神経科診療所医会総会、宮崎市、1994
- 「Mercury Contamination in Amazon Basin」(シンポジウム) 30th Congresso de Sociedade Brasileira de Medicina Tropical、サルバドル市、ブラジル、1994
- 「Methylmercury Pollution in the World (Special lecture)」Para University School of Medicine、ベレン市、ブラジル、1994
- 「Several Occupational and Environmental Poisonings in Japan (Special lecture)」Para University School of Medicine、ベレン市、ブラジル、1994
- 「Characteristics of industrial poisoning and environmental contamination in developing countries」Symposium on Control of Health Problems in the Modernizing Process of Developing Countries、Kumamoto、1995.11.5
- 「アジア農村地域における環境汚染 (特別講演)」福岡農村医学会総会、福岡市、1996.1.3
- 「Minamata Disease, as a Model of Environmental Problems, Science and Technology for Environment」Environmental Measurement and Analysis, 新技術事業団異分野研究交流フォーラム、札幌、1996.2.23
- 「水俣から世界を見る (特別講演)」第46回日本木材学会総会、熊本市、1996.4.4
- 「水俣病の臨床 (招待講演)」第33回名古屋神経病理アカデミー、名古屋市、1996.7.20
- 「世界にひろがる水銀汚染 (特別講演)」第29回熊本臨床検査学会総会、水俣市、1997.4.20
- 「Relation between head hair mercury level and health; Minamata, the Amazon and the Lake Victoria」International Conference on Human Effects of Mercury Exposure, Faroe Island, Denmark, 1997.7.23
- 「Risk assessment of mercury pollution in the Amazon by analyzing human hair samples」International Conference on Human Effects of Mercury Exposure, Faroe Island, Denmark, 1997.7.24
- 「Psychiatric Follow Up Study on Carbon Monoxide Poisoning」9th Annual Meeting American Neuropsychiatric Association, Honolulu, Hawaii, 1998.1.3
- 「発展途上国の産業保健と環境汚染 (シンポジウム)」第22回日本熱帯医学会九州大会、熊本市、1998.1.23
- 「最初の環境「子宮」、水俣からベトナムへ」日本文化研究所総合研究大学院大学総合シンポジウム「生命科学と生命観 — 21世紀における発展と変遷」、京都、1998.3.29

- 「Special Report on Minamata Disease」Intenational Workshop on Environmental Monitoring of Lake Victoria, Kisumu, Kenia, 1998.8.27
- 「Minamata Disease : Mercury Pollution in the World (Special lecture)」International Symposium on Mercury Pollution in Amazon, Belen, Brazil, 1998.11.29
- 「Minamata disease and the Mercury Pollution of the Globe」Environmental Experts “Workshop for the Environmental Cooperation in Northeast Asia”, Seoul, Korea, 1998.25
- 「水俣病に学ぶ（教育講演）」平成11年度全国獣医学教育研究集会、熊本市、1999.10.15
- 「水俣が映す世界（教育講演）」第58回日本公衆衛生学会総会、大分市、1999.10.21
- 「世界の環境汚染現場に行く、世界から日本を見る（特別講演）」第48回日本農村医学会総会、出雲市、1999.10.29
- 「世界の環境汚染現場に行く（特別講演）」第26回日本精神神経科診療所協会総会学術研究会、熊本市、2000.5.27
- 「二硫化炭素中毒の歴史的経過から職業病を考える（招待講演）」韓・日労働保健学術交流会ソウル市、2000.6.3
- 「水俣が映す世界（招待講演）」科学教育研究九州大会、熊本市、2000.6.10
- 「発展途上国における環境問題の特徴」国際 NGO フォーラム「世界の市場化と環境問題」、那覇市、2000.7.15
- 「水俣病と世界の水銀汚染（特別講演）」鹿児島医師会、鹿児島市、2000.7.28
- 「発展途上国における環境汚染を追う（招待講演）」九州高等学校地理・公民教育研究会、天草郡大矢野町、2000.7.30
- 「水俣が映す世界（特別講演）」第14回日本教育大学協会全国家庭科大会、熊本市、2000.8.3
- 「Mercury Pollution in the Amazon Basin, Brazil」International Conference on Heavy Metals in the Environment, Ann Arbor, Michigan, USA, 2000.8
- 「水俣から学ぶ（招待講演）」第29回全九州手話通訳研修会、鹿児島市、2000.10
- 「水俣からの警告とメッセージ」「環境と公害」創刊30周年記念学術講演会、東京、2000.10.21
- 「Minamata Disease and Victims Movements」International Symposium of Grassroots Activism and the Environment in Asia, Institute of Cultural Studies, International Christian University, Tokyo, 2000.11.7
- 「21世紀の環境教育への提言（特別講演）」第47回日本学校保健学会総会、2000.10.8
- 「水俣病に学ぶ（特別講演）」第21回動物臨床医学会年次大会、大阪、2000.11.18
- 「新しく発見された胎児性水俣病」第6回水俣病事件研究会、熊本市、2000.1.13
- 「Minamata Disease and Mercury Pollution in The World」Special Offered Training Course in Seminar on Women in Environment and Development, JICA, Kumamoto City, 2001.1.22
- 「The Minamata Disease Pollution Case (Special Lecture) : A Historcal Perspective, (2) The Epidemiology and Pathology of Minamata Disease, Japanese Environmental Issues From Meiji to Heisei」Coorporative Studies of Michigan State University, Siga-ken, Hikone city, 2001.2.1
- 「胎児性水俣病の現状」第63回熊本神経精神学会、熊本市、2001.2.24
- 「日本の公害事件における健康被害の実態について、その捉え方と裁判との関係」環境紛争処理日中国際ワークショップ、北京市、2001.9.15
- 「Human Exposure to mercury in the Tapajos river basin;Toxicological and epidemiological date during 1994-1998」6th International Conference on Mercury as a Global Pollution, Minamata, Japan, 2001.10.15-19
- 「Altered sex ratio at fetal Minamata disease patients」6th International Conference on Mercury as

- a Global Pollution, Minamata, Japan, 2001.10.15-19
- 「未知な障害への科学的アプローチ、水俣病との出会いを通じて」日本補綴歯科学会九州支部総会、熊本市、2002.8.25
- 「未来へのメッセージ」国際環境都市会議くまもと2002、熊本市、2002.10.29
- 「公害の原点としての水俣病」第4回日本地域福祉学会九州部会、熊本市、2003.2.1
- 「胎児からのメッセージ」第25回九州地区重症心身障害医学研究会、熊本市、2003.3.1
- 「いまなぜ水俣学か」環境社会学会第27回セミナー、水俣市、2003.3.25
- 「水俣病から学ぶもの」第22回日本歯科医学教育学会総会、長崎市、2003.7.11
- 「水俣からのメッセージ」第10回日本コミュニケーション学会九州支部総会、熊本市、2003.10.13
- 「水俣病から水俣学へ」四日市公害からアジアへ国際シンポジウム、津市、2003.10.17
- 「水俣病、カネミ油症、ベトナム」日台環境フォーラム、台南市、2004.2.11
- 「公害における医学の役割」第2回環境被害救済日中国際フォーラム、熊本市、2004.3.21
- 「The Countermeasure of Big-four Kogai (Environmental Pollution) in Japan」Institute of Health and Environment, Seoul National University, Seoul, Korea, 2004.6.1
- 「Environmental Health Policy in Japan and Minamata Disease」International Symposium of “Challenge in Environmental Health Policy of Korea”, Seoul, Korea, 2004.6.3
- 「現場から学問の捉え直し、なぜ水俣学か」シンポジウム：水俣病と科学のあり方、北海道大学高等法政教育研究センター学術創生研究プロジェクト、札幌市、2004.6.5
- 「シンポジウム：四大公害との接点、四日市からアジアへ」、三重大学、津市、2004.7.24
- 「なぜ今、水俣学か」第48回経済統計学会、熊本市、2004.9.11
- 「水俣病の歴史から学ぶ」慶州威徳大学（韓国）、2004.9.18
- 「水俣病の歴史と現実は何を問いかけているか」シンポジウム：持続可能な社会実現への提言、環境再生・地域再生の視点から、日本生命財団、日本環境会議、2005.3.25
- 「水俣、カネミ油症からベトナムへ」日台シンポジウム：ダイオキシンの医学的所見、台南市、中華医事学院、2005.5.1
- 「水俣からのメッセージ（特別講演）」Hasanuddin University, Makassar, Indonesia, 2005.5.4
- 「Minamata Disease and the Mercury Pollution of the Globe」International Conference 2005. Collaboration for Addressing Common Environmental Issues in Asia-Pacific Region, Miryang National University, Korea, 2005.6.3-4
- 「現場からの学問の捉え直し、なぜ今、水俣学か」シンポジウム：水俣病問題からの問い、第31回日本保健医療社会学会、熊本市、2005.5.15
- 「水俣病の問題から何を学び、継承するか」日本学術会議第2部シンポジウム：地域住民の福祉環境とエンパワーメント、熊本市、2005.7.7
- 「患者さんから学ぶ、水俣学の模索」第14回若月賞受賞講演、佐久市、農村保健振興会、2005.7.28
- 「人類史に及ぼした水俣病の教訓 — 公害原論（基調講演）」第3回環境紛争処理中日国際ワークショップ、上海市、2005.11.26
- 「Research on Minamata Disease」The 1st Seminar on women in environment and development, Kumamoto, 2006.3.1
- 「胎児性水俣病の教訓」化学史学会シンポジウム、東京、2006.6.17
- 「水俣学が目指すもの（特別講演）」不知火海・球磨川流域圏学会、八代市、2007.5.13
- 「Intrauterine Methylmercury Poisoning, Congenital Minamata Disease (Special lecture)」Current Issues and Challenges in Environmental Health Studies, Korean Society of Environmental Health, Asan, Korea, 2007.6.1-3

- 「医療から見た水俣病事件報道」日本マス・コミュニケーション学会シンポジウム、熊本市、2007.6.9-10
- 「水俣学序説 ― 水俣病の教訓をどう活かすか（特別講演）」日本地理学会、熊本市、2007.10.7
- 「水俣からいのちを考える（特別講演）」、第31回日本死の臨床研究会、熊本市、2007.11.10-11
- 「水俣病と研究者（特別講演）」、琵琶湖市民大学、京都市、2007.11.23
- 「水俣学と谷中学（特別講演）」、第80回公共哲学研究フォーラム、熊本市、2007.11.25
- 「水俣学から見た“弱者”への視点」第7回日本社会福祉学会「政策・理論フォーラム」、佐賀県神崎市、2008.3.16
- 「水俣にまなぶ、いのちの価値（特別講演）」、第81回日本ハンセン病学会、熊本市、2008.5.22.
- 「水俣学にまなぶ」竜谷大学福祉フォーラム2008「当事者主権の価値と実践」（基調講演）、大津市、2008.10.4
- 「公害と差別、水俣とカナダの例から」平成20年度熊本学園大学秋季公開講座特別講演、熊本市、2008.10.25
- 「水俣病から学んだこと」シンポジウム：スティグマの障害学 ― 水俣病、ハンセン病と障害学、障害学会第5回大会、熊本市、2008.10.25
- 「医学的見地から見た水俣病（基調講演）」、日本弁護士連合会、東京、2008.11.1
- 「History of Minamata Disease; Area-focussed Training Course on Environment Management」Pollution Control for Southwest Asia, JICA, Kumamoto, 2008.11.5.
- 「水俣に学ぶ、谷中学から水俣学へ」第16回公開講座、「DO がくもん」、熊本市、2008.11.8.
- 「水俣と三池、専門家の責任」立命館大学共通教育機構現代環境論、京都市、2008.12.13
- 「水俣学事始め ― 水俣学と谷中学」第三回日仏セミナー：日仏二社会の珪肺、アスベスト疾患 ― 空間的マッピングと人文的研究、日本学術振興会・フランスANR・神戸大学、神戸市、2009.2.17
- 「新潟水俣病の原点」、第37回日本有機農業研究会全国大会記念講演、新発田市、2009.3.14
- 「水俣のかかわりから命を考える（特別講演）」、第17回日本社会福祉士会全国大会、熊本市、2009.5.30
- 「水俣からまなぶ（招待講演）」第23回日本小児救急医学会、熊本市、2009.6.19
- 「つながりめぐる “いのち ― 水俣学事始” 第1回エコファーマシンポジウム（文部科学省、質の高い大学教育推進プログラム）」、熊本市、2009.7.28
- 「いのちのつながり・水俣から学ぶ（特別講演）」NHK学園専攻科CSネットワーク九州地区セミナー、阿蘇市、2009.9.5
- 「熊本・新潟水俣病から世界へ発信（特別講演）」新潟大学医学部水俣病研究会、新潟市、2009.9.28
- 「水俣学 ― 精神科医としての有機水銀中毒とのかかわりから（特別講演）」第62回九州精神神経学会、熊本市、2009.10.22
- 「水俣の未来へ～水俣学研究5年の歩み」DO がくもん・シンポジウム（基調講演）、熊本市、2009.11.21
- 「水俣病の歴史と今」全国保険医団体連合会特別講演、阿蘇市、2009.11.23
- 「水俣からのメッセージ（特別講演）」龍谷大学文部科学省人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター事業第14期研究展示「自然と人間のつながり ― 水俣病に学ぶ」、京都市、2009.12.2
- 「Fifty years of Minamata disease: A report on one of the world's worst cases of health damage caused by environmental pollution」The 41st Japan Seminar of Montreal, Montreal, Canada, 2010.4.2.
- 「水俣からまなぶ（特別講演）」第13回平和教育研究交流会議、熊本市、2010.5.2
- 「Recent findings of Minamata disease - From a population-based study conducted in 1971-」. ISES/ISEE International Conference, Seoul, Korea. 2010.8.28-9.1

「Epidemiology of Congenital Minamata Disease」 ISES/ISEE International Conference, Seoul, Korea.
2010.8.28-9.1

「水俣に学ぶ、公害から地球環境問題へ」 KYOTO 地球環境の殿堂入り記念講演、京都市、2011.2.15

「水俣病から現代社会を考える」 全国水平社創立90周年記念・第26回人権啓発研究集会（全体講演）、
熊本市、2012.2.2

「水俣学事始め — 田中正造100回忌特別講演」、第98回日本消化器病学会総会（特別講演）、東京、
2012.4.19